

## 園芸療法に注意を要する植物リスト

### [A] 誤食により作用発現するもの

植物名	科名	説明
チョウセンアサガオ	ナス	ナス科の一年草。エンジェル・トランペット、ダチュラ・イエロークイン、ダチュラ・パープルクインなどの品種名で出回る。夏～初秋にかけて葉脈から上向きに大型で白色のロート状の5つの突起を有する美しい花を咲かせる。花が咲き終わった後は大型でトゲのある果実をつける。毒の成分はスコポラミン、アトロピン、ヒヨスチアミン(副交感神経抑制)。 <b>花、茎、葉、根、果実、種子のすべてに有毒成分が含まれている。</b> 木立タイプのものより、ダチュラなどの名前が出回っている草本類のほうが毒性が強いと言われている。抗コリン作用があり <b>中毒症状で口渇、興奮、散瞳、頭痛、めまい、心拍数の増加、排尿障害。</b>
クリスマスローズ	キンポウゲ	キンポウゲ科の常緑多年草。毒の成分はヘレブリン、スプリンチリンのほかアコニチン様アルカロイドも含む。全草に毒を有しているが、 <b>主に根や根茎に多く含まれている。</b> ヘレブリンは強心配糖体の一種。スプリンチリンは皮膚や粘膜に炎症を起こす。中毒症状として <b>めまい、吐き気、嘔吐。</b> 多量では <b>心筋に直接作用して心臓麻痺をおこす可能性あり。</b>
オモト	ユリ	ユリ科の常緑多年草。毒の成分はロデイン、ロデキシ。強心配糖体。 <b>主に根茎にロデインが含まれ、葉にロデキシが含まれている。</b> 中毒症状は <b>悪心、嘔吐、頭痛、不整脈、血圧低下。</b> 多量では <b>心筋収縮力の増大、徐脈、刺激伝導の抑制がおき心臓麻痺をおこす可能性あり。</b>
アセビ	ツツジ	ツツジ科の常緑低木。毒の成分はアセボトキシ、グラヤノトキシⅢ。 <b>葉、茎、花に含まれる。</b> グラヤノトキシは強い粘膜刺激作用がある。 <b>誤食すると嘔吐、下痢酩酊状態、痙攣、神経麻痺、呼吸困難の可能性あり。</b>
ロベリア	キキョウ	キキョウ科の一～二年草(多年草もある)。毒の成分はロベリン、 <b>全草に含まれている。</b> 中枢性呼吸興奮作用、催吐作用、ニコチンと同様の作用がある。(頸動脈体化学受容器刺激) サワギキョウにもロベリンが含まれている。
フクジュソウ	キンポウゲ	キンポウゲ科の宿根草。毒の成分はシマリン、アドトキシ、強心配糖体。全草に含まれているが <b>特に根に多く含まれている。</b> <b>中毒症状は嘔吐、呼吸困難、心臓麻痺。</b>
シャクナゲ	ツツジ	ツツジ科の常緑低木。毒の成分はロードトキシ、グアヤノトキシなどで全草に含まれている。シャクナゲは多くの種類があるがそのすべてが有毒である。ロードトキシは痙攣毒の成分の一つ。 <b>中毒症状としては悪心、嘔吐、運動麻痺、呼吸困難の可能性あり。</b>
レンゲツツジ	ツツジ	ツツジ科の落葉低木。毒の成分は葉にアンドロメドキシ(グアヤノトキシ類似)、 <b>花や密にロドヤポニン、根にスパラソールを含み、特にロドヤポニンが有毒なので、レンゲツツジの密は吸ってはいけません。すべて神経毒。</b>
ヒガンバナ	ヒガンバナ	ヒガンバナ科の多年草。リコリスという名で園芸品種も多く出回っている。毒の成分はリコリン、ガランタミン。全草に含まれているが、 <b>特に鱗茎に含まれている。</b> リコリンの <b>中毒症状は嘔吐、よだれを垂らす、悪心、下痢による脱水性ショック、中枢神経麻痺、ガランタミンの中毒症状はめまい、嘔吐、下痢。</b>
ランタナ	クマツヅラ	クマツヅラ科の常緑小低木。毒の成分はランタニン。 <b>すべての部位が有毒で特に緑色の実は毒性が強い。</b> 胃腸に炎症をおこし、 <b>虚脱状態になることがある。</b>
スイセン	ヒガンバナ	ヒガンバナ科の多年草。毒の成分はリコリン。 <b>主に球根に含まれている。</b> 中毒症状は嘔吐、よだれを垂らす、悪心、下痢による <b>脱水性ショック、中枢神経麻痺。</b>
スズラン	ユリ	ユリ科の多年草。毒の成分はコンバトキシ、コンバトキソール、コンバロサイド。強心配糖体。全草に毒を含んでいるが <b>特に根や根茎に多く含まれている。</b> 中毒症状は嘔吐、頭痛、めまい、徐脈、血圧低下、 <b>心臓麻痺の可能性あり。</b>
アサガオ	ヒルガオ	ヒルガオ科のツル性一年草。毒の成分はファルビチン、種子に含まれている樹脂配糖体。 <b>強い瀉下作用</b> がある。種子を乾燥させたものはケンゴシという生薬。大人の場合7粒ほどで薬理作用がでるというデータもある。
シクラメン	サクラソウ	サクラソウ科の多年草。毒の成分はシクラミン、サポニン的一种。 <b>塊茎に含まれている。</b> 誤食すれば <b>嘔吐、下痢、胃腸障害の可能性</b> がある。
ニオイスマレ	スマレ	スマレ科。毒の成分はピオリン、神経毒。主に <b>種子や根茎に含まれる。</b> 誤多食すると <b>吐き気、嘔吐の可能性</b> がある。パンジーにも含まれる。
イチイ	イチイ	イチイ科の常緑針葉高木。毒の成分はタキソール、タキソニン。主に <b>種子や葉に含まれる</b> が果実の仮種皮には含まれない。果肉だけを食べていれば問題なし。セイヨウイチイの抽出物から抗がん剤のパクリタキセルが合成される。
コルチカム(イヌサフラン)	ユリ	ユリ科の多年草。毒の成分はコルヒチン、中枢神経麻痺作用があり痛風発作の前兆期に用いられる成分。 <b>球根1球を全部食べてしまうと致死量に達する可能性がある。</b> 中毒症状は <b>下痢、嘔吐、腹痛、筋麻痺。</b>
パイモ(アミガサユリ)	ユリ	ユリ科の多年草。毒の成分はフリチリン、フリチラリン、 <b>球根に含まれている。</b> 中枢神経を麻痺させ呼吸や自発運動に作用し、 <b>心筋をおかしたり血圧を下降させる作用</b> がある。アトロピン類似作用もあり。
ニシキギ	ニシキギ	ニシキギ科。秋に実る果実は楕円形のさく果で、熟すと縦にわれて中から橙赤色の仮種皮に包まれた種子が現れるが <b>種子は有毒</b> である。コルク質の翼にはシステロール、システロンが含まれている。
ニチニチソウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ科。一般には一年草。毒の成分はピンクリスチン、ピンプラスチンで抗腫瘍作用。ピンクリスチンは <b>全草に含まれる。</b> 誤食すると <b>全身に麻痺がおこる可能性あり。</b> ツルニチニチソウも有毒。
ホオズキ	ナス	ナス科の一年草(多年草もある) 毒の成分はヒソニン、 <b>全草に含まれ子宮収縮作用あり。</b> 妊婦は <b>注意必要。</b> 全草を乾燥させたものは生薬の酸漿、根を天日干したものを生薬の酸漿根、多飲、多食は注意。
ルピナス	マメ	マメ科の一年草。毒の成分はスパルテイン、ルピニンで種子に含まれている。種子には <b>強い子宮収縮作用があり妊婦は注意が必要。</b> また心臓毒の一つであり誤食すると <b>嘔吐や麻痺などを引き起こす可能性</b> がある。
ウメ	バラ	バラ科の落葉小高木。毒の成分はアミグダリン、青酸配糖体。 <b>アオウメや種子や葉に含まれる。</b> 梅干、梅酒、砂糖漬けなど加工すると毒性が消える。中毒症状は <b>中枢神経系を刺激し呼吸や心臓麻痺の可能性あり。</b> 青酸カリ中毒と同じ。アミグダリンは生薬の杏仁、桃仁として鎮咳薬に使用されている。
セイヨウキズタ	ウコギ	ウコギ科。 <b>食べると興奮し、呼吸困難に陥った後昏睡状態</b> になる。

[B] 接触でもアレルギー様作用発現するもの

植物名	科名	説明
キョウチクトウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ科の常緑小低木。毒の成分はオレアンドリン、アディレニン、ギトキシゲン、ジトキシゲン。強心配糖体。主に葉に強い有毒成分を含んでいる。中毒症状は下痢、嘔吐、めまい、腹痛、不整脈、心臓麻痺の危険がある。葉や枝を折ると白い汁がでてくるが、この汁が目に入ると強い刺激がある。
テイカカズラ	キョウチクトウ	キョウチクトウ科のツル性常緑低木。毒の成分はトラチェロシド、ルテオリン、アピゲニン。全草に含まれているが特に葉と茎に多く含まれている。葉や茎を日干しにしたものは生薬の絡石。弱い強心作用があり中毒症状はキョウチクトウに似ている。
アイリス	アヤメ	アヤメ科の多年草。毒の成分はイリジェニン、イリジン。全草に含まれているが特に球根や根茎に多く含まれている。少し口にしただけでも口の中がヒリヒリするため中毒量を食べることはまずない。また葉や茎を傷つけたときに出る樹液をさわることによって皮膚炎をおこす可能性がある。
ヒヤシンス	ユリ	ユリ科の多年草。毒の成分はシュウ酸カルシウム。球根に含まれているシュウ酸カルシウムの小さな針状の結晶が肌に刺さり刺激されることで皮膚炎がでる場合がある。鱗茎の傷ついたものは注意が必要。誤食すると体液と結合して低カルシウム症となり痙攣や虚脱がでる可能性がある。
チューリップ	ユリ	ユリ科の多年草。毒の成分はツリピン(心臓毒)、ツリパリン(アレルギー性物質)。ツリパリンに触れると皮膚炎をおこすことがあるため、傷ついた球根には注意が必要。
ポインセチア	トウダイグサ	トウダイグサ科の常緑低木。毒の成分はフォルボール。全草に含まれているが特に茎や葉を傷つけた時に出る白い乳液に含まれている。皮膚につくと水ぶくれや炎症を起こす可能性がある。もし触ってしまったら速やかに水洗いする。
ラナンキュラス	キンポウゲ	キンポウゲ科の多年草。毒の成分はプロトアネモニン。全草に含まれる。揮発性で独特の刺激臭があり局所刺激作用がある。葉や茎を傷つけた時にでる汁液が皮膚につけば発赤、化膿など皮膚炎をおこす可能性がある。花を誤食した場合ひどい腹痛はでるかもしれないが、致死的ではない。
アネモネ	キンポウゲ	キンポウゲ科の多年草。毒の成分はプロトアネモニン。葉や茎を傷つけた時にでる汁液が皮膚につけば発赤、化膿など皮膚炎をおこす可能性がある。汁がついた部分をよく水洗いすること。センニンソウにもプロトアネモニンが含まれている。
ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ科のつる性落葉高木。毒の成分はラパコール、アレルギー性物質の一つと考えられている。全草に含まれているが特に花に多く含まれている。花汁が手につくとかぶれることがあり、目に入ると炎症をおこす。花汁が腫れることがあるので、花汁がついたら速やかに水で洗い流すこと。

引用書籍

- 毒草大百科
- 毒草100種
- 世界有用植物事典
- 天然薬物事典
- 園芸療法実践入門